

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

68

認知症の方が地域で暮らしていくために、諏訪地域でも様々な取り組みが行われています。そして、その取り組みの連携が大変大切です。

認知症疾患医療センターの役割の一つに、スムーズな認知症医療・介護・生活支援のために地域の関連機関と連携することがあります。

今年度、そのような関連機関の一つである認知症地域支援推進員の皆さんと交流会を持ちました。認知症地域支援推進員(以下推進員とする)とは、各市町村に配置され、「認知症になっても住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できる社会」の実現のために、医療・介護および生活支援を行う様々なサービスの連携支援、認知症の人やその家族を支援する相談業務などを担っています。ちなみに、諏訪市の場合は「ライフドアすわ」の職員4名が推進員です。交流会を企画したのは次の

ような理由がありました。認知症疾患医療センターは二次医療圏(諏訪6市町村)を対象としているため6市町村それぞれの推進員の皆様とかわりがありますが、推進員の皆さんは市町村ごとに活動しているためお互いの交流の場がなく、町村単位での活動は相談先も限られ孤独感や活動への行き詰まりを感じておられました。そこで、認知症疾患医療センターとの連携を市町村間でも共有し、各地域の支援に生かすべく交流会を企画しました。

交流会では、諏訪地域の推進員が集まり、お互いの課題を共有し合い、認知症カフェ、仲間

諏訪地域認知症疾患医療センター(諏訪赤十字病院内) 認知症看護認定看護師

うえまつ ようこ
植松 洋子



認知症地域支援推進員の皆さんとの交流会の様子

づくり、認知症についての理解を促進する取り組み等々の活動を

の情報を交換しました。市町村の枠を超えて、地域に合わせた

認知症の方への支援や地域づくりを考える機会となりました。認知症の方が住み慣れた地域で生活していくためには周囲からの何らかの支援が必要な場合が多いのですが、支援する人もまた周囲から支えられていると感じられることが必要だと感じます。今回の交流会では、支えあえるネットワークがあることの大切さを実感できました。また、一人でも多くの方が推進員の活動を理解してくださったがり、活動に参加・協力していただいたりしてネットワークに加わっていただくことで、認知症の方だけでなく皆が暮らしやすい地域になっていくのではないかと思います。

認知症はだれもがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることを含め、多くの人にとって身近なものです。9月21日は「世界アルツハイマーデー」、9月は「世界アルツハイマー月間」です。世界中で認知症の啓蒙活動が行われます。諏訪地域でも地域の図書館や公共機関等でイベントや展示コーナーが設置されることもあります。この機会に足を運び認知症について理解を深めてみてはいかがでしょうか。

(毎月第2日曜日掲載)

市町村を超えたつながりを地域の支援にいかす